

ASCURE 卒煙 コラム

たばこの歴史と背景

..... **今月のコラムCHECK** 

1月13日は「たばこの日」でした。

時代によって移りゆく、たばこの歴史・社会の変遷をみていきましょう！

今回のpoint 神聖なもの→薬→毒物と時代背景とともに変化してきたたばこ

■ たばこのはじまり

▶ 紀元前

たばこは**神聖なもの**とされており、神前で神官が吸ったりしていたという説もあります。

次第に各国に広まるきっかけを作ったのは、かの有名な**コロンブス**です。コロンブスがアメリカ大陸を発見した時、先住民からたばこをプレゼントされました。（右図¹）これをきっかけに、世界へと広まったとされています。



■ 日本とたばこ

▶ 江戸時代

ポルトガル人により鉄砲とともにたばこが伝わってきました。右図²はたばこの味比べをしている絵です。

外国ではたばこを**医薬品**として使用していると聞いた**家康**は、たばこ栽培を奨励し始めました。



▶ 明治時代

たばこはハイカラ志向をくすぐったこともあって、大都市を中心に、もてはやされるようになりました。（右図³）

日露戦争の戦費を調達する必要にも迫られ、政府はたばこの製造専売（国家が主として収入を得る目的をもって、生産・販売を独占すること）にふみ切りました。困窮した財政にとってたばこは重要な財源となっていました。

国が喫煙を奨励したことにより、昭和40年頃には日本人男性の喫煙率が80%を超えるという異常事態になったのです。⁴



■ 現代の禁煙の動き ⊕

1990年代「生活習慣病」という概念が広がり、1997年には「厚生白書」⁵にたばこは健康問題と明記され、たばこの有害性の研究結果も注目されはじめました。

そこから現在に至るまでに健康増進法による喫煙場所などの規定や、たばこのパッケージに注意喚起の表示が義務付けられる等、禁煙への動きがどんどん進んできました。

2006年度厚生労働省「喫煙と禁煙の経済的影響」の報告書によると、医療費や労働力の損失、火災による損害などの社会全体の**経済的損失は約4兆9千億円以上**⁶と、驚きの試算金額が発表されました。



今回のコラムはいかがでしたか？

歴史をたどると、元は神聖なもの・医薬品として使われていたたばこですが、社会の変遷と共に有害性も明らかとなり、今後さらなる禁煙の動きが促進されると言えるでしょう。

今年は専門家と一緒に禁煙を始めてみませんか？あなたの禁煙、ascure卒煙プログラムで促進します！



これを機会に、一緒に禁煙を始めてみませんか？



弊社が提供する「ascure卒煙プログラム」では、一人ひとりの状態や悩みに応じた的確な禁煙支援を行います。

加えて、「呼吸器内科医監修の専用アプリ」「禁煙に関する資格を持つ看護師／保健師／管理栄養士／薬剤師によるオンライン面談」「一般用医薬品の自宅配送」を組み合わせることで、高い利便性と、精神的・身体的サポートを実現します。

アプリでは、日々の状態を入力したり、様々な機能を使って正しい知識や禁煙に向けた対処法を学んだりすることができます。禁煙の失敗が多い3～6ヶ月の期間も支援する長期にわたるサポートが、プログラム終了後にもしっかりと持続できる禁煙継続に寄与します。さらに、プログラム開始から6ヶ月後に、専用キットを用いて禁煙達成状況の確認を行います。

詳細は、ご加入の健康保険組合様までお問い合わせください。

参考・引用文献

1)2)3)4)

JT たばこと塩の博物館（2024年1月5日閲覧）

<https://www.tabashio.jp/collection/tobacco/t2/index.html>

5)

厚生白書（平成9年版）

https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/kousei/1997/dl/04.pdf

6)

医療経済学会雑誌/医療経済研究機構機関誌

https://www.ihep.jp/wp-content/uploads/current/research/all/28/Vol.19_No.3_2008.pdf